

日頃から
気をつけよう。



肥満に
ご注意!

肥満は犬猫自身の
負担になり、多くの病気の
原因にもなります。

気をつけるポイント!

1. 理想体重を知ろう!
2. 年齢に合わせたフードを与えよう!
3. おやつをあげたら主食を減らそう!
4. おねだりに負けない!

与えるフードの量は理想体重
が基準になります。獣医師に
相談してみましょう。

おやつは1日に必要な
カロリーの20%まで。

欲しがるとばかりを与えると、
偏食の原因やしつけの妨げ
にもなります。

適切なフードを与え、
犬猫の健康を守るのは、
飼い主の責任です!!



詳しい情報は
環境省HPを
ご覧下さい。



動物愛護管理室HP



飼い主のための
ペットフード・ガイドライン

発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室
HP：<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>
資料：飼い主のためのペットフード・ガイドライン
作成：(一社)日本科学飼料協会
協力：(一社)ペットフード協会、(一社)日本ペット栄養学会
編集・デザイン：株式会社キタジマ

○フードの与え方

犬の場合



犬は目の前にある食べものをお腹いっぱい
になるまで食べる習性があります。
欲しがるとだけ与えるのではなく、フードの
重さを量って与える量を調整しましょう。

猫の場合



猫は昼夜を問わずに少量ずつ何回も食
べる習性があります。1日2~3回に分けて与
えるかドライフードを置いておくなど、こ
まめに食べられるように工夫しましょう。

○食器はいつもキレイに!

使い終わった食器には唾液や食べかすが
残っています。毎回洗い、乾燥させて清潔に
保ちましょう。



○飲みものにも注意を!

いつでも新鮮な水が飲めるように用意し
ましょう。人用のミネラルウォーターは、マグ
ネシウムなどのミネラルが多く含まれるもの
もあるため注意が必要です。

また、犬や猫は牛乳に多く含まれる乳糖を
うまく消化できないため、下痢などを起こす
ことがあります。ミルクは犬や猫専用のもの
を与えましょう。



! フードの切り替え方

フードを急に変わると下痢や嘔吐を起こすことが
あります。フードを切り替える時は、1週間くらいか
けて新しいフードの割合を徐々に増やしましょう。

犬猫の
健康を守るために

ペットフードについて
考えよう!!

~あなたができること~



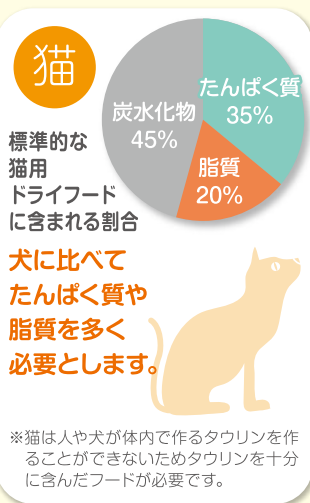
環境省
Ministry of the Environment

犬・猫に必要な栄養素を理解しよう。



犬と猫では必要な栄養素の割合が大きく違います。

■エネルギーを作る三大栄養素での比較



味覚のちがい!
犬は甘いものが大好きです。おやつとのえすぎに注意しましょう。猫は甘みを感じることができません。

人の食べものは塩辛い!?
犬や猫は汗によって塩分を体の外に出すことができません。人の食べものは塩辛く、知らない間に心臓や腎臓に負担をかけてしまいます。チーズやハム、にぼしなども犬や猫専用のものを与えましょう。

犬・猫に与えてはいけないもの!!



知らずに食べてしまうと下痢や嘔吐、死の原因になります。

タマネギ・ネギ・ニラ・ニンニク

赤血球が破壊され血尿、下痢、嘔吐や発熱などを引き起こします。また、加熱しても有害な成分は分解されないため調理済みの食べ物にも注意が必要です。



チョコレート

犬や猫（特に犬）は嘔吐や下痢、発熱、けいれんなどを起こすことがあります。



キシリトール入りのガム

犬が食べるとたとえ少量でも血糖値の低下や嘔吐、肝不全などを起こし、最悪の場合は死に至ります。



鶏の骨

鶏の骨は縦に裂けやすく、噛んで割れるととがった形になってしまいます。とがった骨はのどや消化管を傷つけることがあり危険です。



生の魚介類

下痢や嘔吐、猫では後肢の麻痺を起こします。与える場合は必ず加熱調理しましょう。



ブドウ

特にブドウの皮や干しブドウは犬や猫の腎不全の原因になります。



注意が必要なもの
香辛料・コーヒーや緑茶、紅茶・生卵（白身）・生肉 など

※この他の食材にも犬や猫の体調や与える量によって注意が必要な場合があります。

市販のペットフードを理解しよう。



ペットフードには様々な分類があります。

■目的別の分類

目的をたしかめて選びましょう。主食には総合栄養食を与えます。

総合栄養食	療法食
必要な栄養のバランスが調整された主食用のフード	獣医師の診断・指導のもとに病気の犬猫に与えるフード
間食	その他目的食
おやつやごほうびとして与えるジャーキーやガムなど	一般食（おかずタイプ）や、嗜好増進、サプリメントなど

■成長段階別の分類

年齢に合わせたフードを選びましょう。

■子犬・子猫用

離乳期用	生後20～60日程度
成長期用	小型犬 ▶生後50日～10か月程度 中型犬・猫 ▶生後50日～1歳程度 大型犬 ▶生後50日～2歳程度

■成犬・成猫用

成犬・成猫期用	成長期以降7年程度
高齢期用	7歳から8歳以降



■タイプ別の分類

タイプにあった保管方法を守りましょう。

ドライタイプ 水分含量：10%以下	使用期限：開封後1ヶ月以内 冷蔵庫で保管すると結露によるカビが発生する可能性があるため常温で保管。	
ウェットタイプ 水分含量：75%程度	使用期限：開封後1日以内 一度に食べきれない場合は別容器に移して冷蔵庫で保管。	
セミモイストタイプ ソフトドライタイプ 水分含量：10～35%	使用期限：2週間程度 開封後は袋をしっかりと閉じて冷蔵庫で保管。	